

SOLUTION LINE UP



サーバープレイアウトおよびインジェスト用アプリケーション

インジェスト、プレイアウト、スケジューリング、ニュース&スポーツ放送運用を包括するソフトウェアアプリケーション群です。

あらゆるビデオサーバーと連携可能で、Array コントロールパネルを統合することで、システム全体の操作性と効率性を大幅に向上させます。



ワークフローに応じてカスタマイズ可能なハードウェアパネル

Avita ソフトウェアと連携し、複数のパネルを組み合わせることでコントロールサーフェスを構築でき、さまざまなワークフローに最適化できます。

Avita システムのほか、サードパーティ製アプリケーションとの併用にも対応しています。



シンプルな VTR/DDR コントローラー

1 チャンネルから 8 チャンネルまで対応する VTR コントロールパネルや、2 ポートサーバー用のコントロールパネルなど、幅広いラインアップを提供。用途に応じて、キューコントローラー、スポーツコントローラー、マルチチャンネルコントローラーとして利用可能です。



AViTA

コントロールソフトウェア



サーバースペシャル / インジェストのためのアプリケーション・ツール

AViTA は、複数のソフトウェアアプリケーションと、自由に構成可能なハードウェアコントロールパネルによって構成される放送用ソフトウェア制作コントロールシステムです。

高い拡張性を備え、MOS インターフェイス、単一パネルからの複数サーバーポートコントロール、スケジュール再生・収録、ログ管理およびハイライト作成、テープアーカイブインジェスト、単一 / 複数ポートからの自動プレイアウトなど、さまざまなソフトウェアによる機能拡張が可能です。

Avita は、専用 PC シャーシ、ソフトウェア単体版、または ARRAY パネルシリーズに統合した形でも利用できます。

主な標準機能

システム統合・制御

- クリップのステータス、再生時間、カウントダウンをわかりやすく表示
- 標準的なビデオサーバー、ディスクレコーダー、VTR 機器をネットワークまたはシリアル経由で統合制御
- 全チャンネルから任意のチャンネルにアクセス可能
- システム設定およびクリップ管理に対するユーザー権限設定
- プレイリストのインポートおよびエクスポートに対応
- As-Run ログを生成
- 高度なクリップデータベース検索機能
- 設定情報・クリップデータベースを不揮発性メモリに動的保存
- クリップをドラッグ&ドロップでプレイリストやユーザービンへ追加
- ローカルまたはリモートの SQL データベースに対応し、冗長構成や複数 Avita 間のファイル共有が可能
- 録画開始直後のクリップを即時再生可能（サーバーの仕様による）
- GPIO 経由で 50 種類以上のトリガーを設定可能

マルチチャンネル / マルチオペレーション

- 1 台の Avita で複数のサーバーチャンネルを制御（最大 20 チャンネル以上まで拡張可能）
- 異なるメーカーのサーバーを同一の環境で統合して管理可能
- チャンネルのグループ化およびロック機能（インジェスト / プレイ用）
- 他のオペレーター操作時に「Channel in Use（使用中）」警告を表示

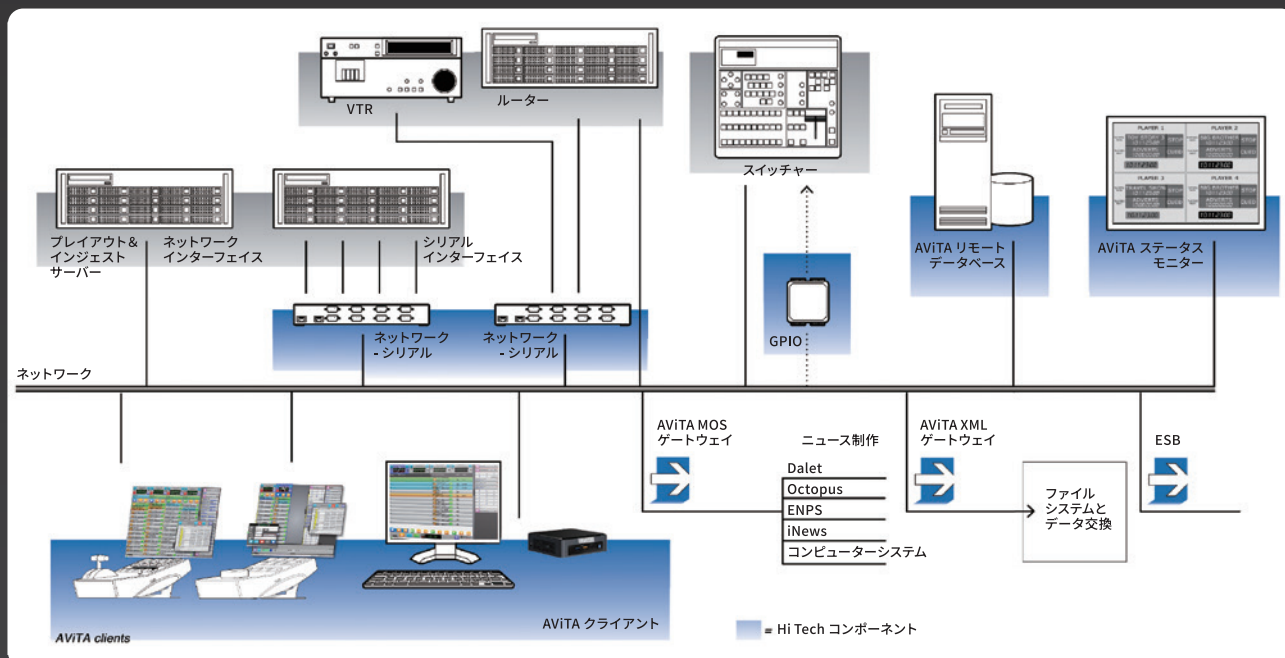
操作性・ユーザーインターフェース

- 直感的に操作できるスライド式メニューパネル
- タッチスクリーン操作に最適化された GUI デザイン（キーボード操作にも対応）
- カスタマイズ可能なマルチスクリーンレイアウト構成
- GUI 内にヘルプ画面を内蔵
- ハードウェアコントロールパネルとの統合オプション
- サーバーチャンネルを使用せずにサーバークリップをプレビュー

Enhanced API (アプリケーション・プログラミング・インターフェース)

- オーディオトラックの入れ替え
- 複数クリップを 1 つのクリップに統合
- 長尺クリップを細かいファイルに分割して管理
- 最大 10 フォルダまでのサポート
- プレイリストを Avita 内またはサーバー側で管理可能
- メタデータ生成

AViTA 構成例





最大 16ch 対応 再生 / 収録ツール

AViTA GearBox

Gearbox は、オンデマンドのプレイアウトおよびインジェスト機能を必要とするライブ制御環境に最適なソリューションです。

各種ビデオサーバーを、タッチスクリーン UI 上のシンプルなボタン操作で一括制御でき、インターフェースは自由にカスタマイズ可能です。これにより、オンエアプレイアウトチェーンの操作を軽快に行うことができます。

プレイリスト

- クリップデータベースからクリップをドラッグ & ドロップして作成
- 手動 / 自動プレイアウト
- 各クリップを 4 種のプレイアウトモードに設定可能
- クリップステータス表示 (ロード / キュー / 再生中 / 終了)
- クリップ情報をカスタマイズして表示

チャンネル表示

- チャンネル名をカスタマイズ
- クリップの再生時間および現在のタイムコードを表示
- 各チャンネルのミニトランスポートコントロールパネル (非表示可能)
- REC または PLAY 用のチャンネルグループ化
- 誤操作防止のためのチャンネルロック機能
- 各チャンネルを手動 / 自動プレイアウトのいずれかに設定可能
- 操作中のチャンネルをわかりやすく表示

クリップ/プレイリスト/データベース

- サーバー上の全クリップを、キーワード・日付・文字列などの条件で検索可能。結果をピンに保存し、ユーザーピンも作成可能。
- クリップは、REC 前または REC 中 (サーバー依存) に、PLAY チャンネル内へプレースホルダーとして配置可能。プレースホルダーは REC 時間の変更を反映し調整されます。

タイムライン表示

- ズーム、左右スクロール、PLAY チャンネルのカラー表示

AViTA GearBox オプション

- 1 つの AViTA から最大 16 チャンネルのサーバー / VTR チャンネルを制御
- 複数の Avita から、共有クリップデータベースへアクセス可能
- 1 つの AViTA に複数のサーバーを接続可能
- ミラーリング / バックアップ制御
- 各種ハードウェアパネルを選択可能
- リモートクリップステータス表示

PLAY / REC モード

- ジョグ / シャトルによるトランスポート再生
- Mark In/Out
- タイムコード指定検索
- クラッシュレコーディング
- メタデータ入力
- プレースホルダーの作成
- 録画時間

システム情報

- ユーザー権限 / ログイン表示
- 年月日 / 時間
- サーバー / クリップのステータス、警告表示

AViTA GearBox - ハイライト編集 / 再生機能

ハイライト作成

- Array ハードウェアパネルの Mark In/Out ボタンを使用して、プレイヤーチャンネル上にハイライトクリップを作成
- 各ハイライトを必要に応じてトリミング、名称変更、削除

ハイライト再生

- 編集チャンネル / クリップデータベースから、再生チャンネルへクリップを直接追加
- 再生モードを選択可能 (「ショットボックス」モードまたは自動連続再生モード)
- 再生中でもプレイリストを編集可能 (クリップの追加・削除・並べ替え)

AViTA GearBox - VTR コントロール

チャンネル表示

- 各 VTR / 複数の VTR をグループ化してカラム表示
- 個別または複数チャンネルを簡単に選択
- テープの残時間、現在のタイムコード、再生ステータスを明確に表示
- 各チャンネルにミニトランスポートコントロールパネルを搭載
- REC または PLAY 用のチャンネルグループ化
- 誤操作防止のためのチャンネルロック機能
- 操作対象チャンネルを明確に表示
- キューポイントの作成および管理機能を搭載

REC

- REC チャンネルに対してメタデータを保存
- GUI、Array ハードウェアパネル、または GPIO から開始
- プレースホルダーの作成
- REC の停止を防ぐチャンネルロック機能

PLAY / REC モード

- ジョグ / シャトルによるトランスポート再生
- Mark In/Out
- 複数のキューポイントを作成
- タイムコード検索
- クラッシュレコーディング
- REC 時間表示



ABCD プレイリスト型プレイアウト & ニュースインテグレーション

AviTA MultiPlay (NRCS インテグレーション用 MOS インタフェースオプション対応)

MultiPlay は、ニュース番組のようにオンエア中の変更が頻発する運用に最適な ABCD プレイリスト形式のプレイアウトシステムです。無人運転による自動プレイアウト環境にも構築可能で、スイッチャーやルーターとの連携にも対応しています。

1~4 チャンネルのプレイアウトを制御でき、「Play Next」「Hold」「Hold & Play」「Skip」などのモードを柔軟に選択可能。Excel、XML、またはスケジューリングシステムからプレイリストをインポートでき、As Run ログは txt または XML 形式で出力可能です。

NRCS との MOS 連携オプション

NRCS で作成された運行表が、自動的に Avita 上へ反映され、Avita の GUI またはコントロールパネルから操作・編集し、そのままオンエア送出が可能です。NRCS 側で運行表に変更が加えられると、Avita 側の情報もリアルタイムに同期・更新されます。ホールド、テイク、ネクストを手動操作する「ショットボックス」スタイル、または完全自動プレイアウトを選択可能です。さらに、GPI インターフェースを介しスイッチャーからの制御も可能です。

加えて、ビデオクリップを運行表に挿入したり、NRCS 内でのビデオプレイチャンネルの自動割り当てを行うこともできます。また、READY/NOT READY/PLAY/END/STOP というクリップステータスを NRCS 側の運行表にフィードバックすることも可能です。

プレイリスト

- クリップデータベースからクリップをドラッグ&ドロップして作成
- 手動 / 自動プレイアウト
- 各クリップを 4 種のプレイアウトモードに設定可能
- クリップステータス表示 (ロード / キュー / 再生中 / 終了)
- クリップ情報をカスタマイズして表示

チャンネル表示

- 最大 4 チャンネルを制御
- クリップ再生時間や、カウントアップ / ダウンのタイムコードを表示
- 各チャンネルのミニトランスポートコントロールパネル (非表示可能)
- PLAY 用チャンネルグループ化
- チャンネルロック機能
- 各チャンネルを手動 / 自動プレイアウト設定可能
- REC/PLAY を個別にチャンネル制御

クリップ/プレイリスト/データベース

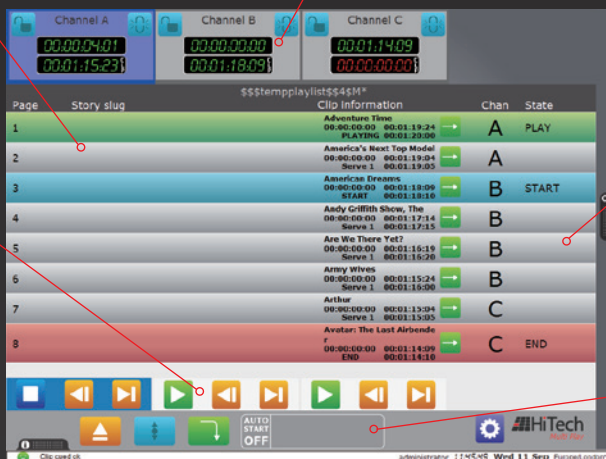
- サーバー上の全クリップを、キーワード・日付・文字列などの条件で検索可能。結果をビンに保存し、ユーザービンも作成可能。
- クリップは、REC 前または REC 中 (サーバー依存) に、プレイチャンネル内へプレースホルダーとして配置可能。プレースホルダーは REC 時間の変更を反映し調整されます。

PLAY 機能

- GUI / ハードウェアパネルから PLAY 制御
- PLAY モード
A→B→C→D / A→A→A / B→B→B 他
- PLAY NEXT 機能
(A で再生中のクリップをスキップして B を再生)
- 全クリップをイジェクト / ロード

MultiPlay オプション

- NRCS (ニュースルームコンピュータシステム) 統合用 MOS インタフェース
- サブ等で使用するためのリモートクリップステータス表示



プレイアウトモード

- クリップを異なるプレイアウトチャンネルに再アサイン可能
- 手動または自動でプレイアウト
- ABCD ニュース形式 GUI
- ルーターとキャラクタージェネレーターへのセカンダリイベント制御 (MultiPlay Plus)
- ステータスの色分け表示

時間指定スタート

- プリセット済みの TOD でスタート
- HH:MM:SS でスタート



ISO カメラ収録用マルチ収録

AviTA MultiRecord

スタジオで複数の録画を同時に記録するために設計された、ISO カメラ収録に最適なソリューションです。収録の設定は、クリップ ID を 1 つ入力して「REC」ボタンを押すだけのシンプル操作。Avita システムが自動的にチャンネル ID を付加し、どのチャンネルで収録されたかを明確に識別します。

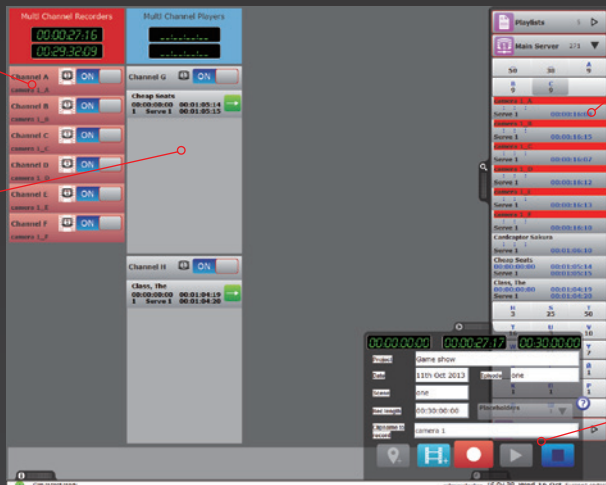
収録された映像はクリップデータベースに保存され、いつでも呼び出し可能。任意のチャンネルは自動的に PLAY チャンネルでプレビューでき、追加の PLAY チャンネルを用いることで、プレイアウト、編集、プレイリストやショットリストの作成も容易に行えます。

マルチチャンネルREC / リプレイ

- 最大 16 チャンネルのグループ REC (各チャンネルを個別にオン / オフ可能)
- 放送回、シーン、テイク、日付などのワークフローに基づいた REC 管理
- クリップ名末尾のチャンネル識別文字によって REC チャンネルを明確に区別
- プレビューチャンネルを使用して、REC 素材の自動再生や編集を実行

MultiRecord オプション

- サブ等で使用するためのリモートクリップステータス表示



クリップデータベース

- 放送回、シーン、テイク、日付など、ワークフローに基づいてクリップを整理
- サーバー上の全クリップを、キーワード・日付・文字列などの条件で検索可能。結果をビンに保存し、ユーザービンも作成可能。

PLAY モード

- ジョグ / シャトルによるトランスポートコントロール
- クリップ編集
- タイムコード指定編集

RECモード

- クラッシュレコーディング
- メタデータ入力
- デューレーション



自動収録およびプレイバックスケジューラー

AviTA Scheduler

インジェストおよびビデオサーバーの REC/PLAY を自動化するスケジュール管理ソリューションです。日次・週次・月次など、繰り返しスケジュールの設定にも対応し、最大 3 か月先までのイベントを柔軟にプログラム可能。20 チャンネル以上の同時制御ができ、複数のサーバー運用にも最適です。

「Record Now」機能により、瞬時にクリップ作成を開始。ルーターやスイッチャーを制御して、正しいソースを自動的にサーバーへルーティングします。REC 中にクリップを再生することも可能で、データベースからクリップをタイムラインにドラッグするだけでスケジュールを作成できます。

スケジュール

- チャンネル上のカレンダーをクリックしてイベントを簡単に作成
- クリップリストまたはプレースホルダーリストからドラッグ&ドロップしてイベントを作成
- イベントはドラッグ操作で時間の調整ができ、In/Out ポイントや再生時間もハンドル操作で直感的に編集可能

タイムライン

- 最大 3 か月分のスケジュールを表示、ズームインで 10 分単位まで表示可能
- 上部バーをクリックするとズームアウト、下部バーをクリックするとズームイン
- タイムライン上の縦バーはリアルタイムで右方向へ移動し、通過時にイベントを開始
- 現在時刻表示をクリックすると、タイムラインを現在位置にリセット
- タイムラインを左右にドラッグして、過去および今後のイベントを表示

主な特長

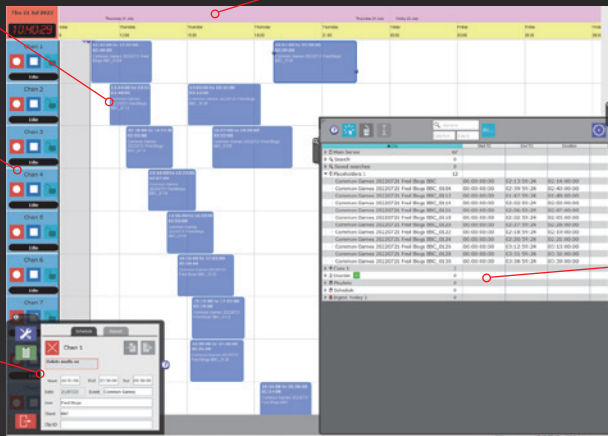
- マルチチャンネルの REC/PLAY に対応
- 繰り返しイベントのスケジューリング設定
- ルーター制御オプション
- スケジュールに基づくクリップの自動削除
- タッチスクリーン操作に最適化された GUI
- 10 分単位から最大 3 か月表示までズーム可能なスケジュールビュー

コントロール

- 最大 16 チャンネルを制御 - スクロールで他のチャンネルを表示
- クラッシュレコーディング、停止、チャンネルロックボタンを搭載
- 各チャンネルのステータス表示

I-パネル

- イベントをクリック、または「I」タブを選択して I パネルを開き、時間情報を手動で入力可能
- ルーターのクロスポイント設定
- 繰り返しイベントの登録



クリップ、スケジュール録画、データベース

- サーバー上の全クリップを、キーワード・日付・文字列などの条件で検索可能。結果をピンに保存し、ユーザービュも作成可能。
- クリップは、REC 前または REC 中（サーバーによる）に、プレイチャンネル内へプレースホルダーとして配置可能。プレースホルダーは REC 時間の変更を反映し更新されます。



テープインジェスト / テープ収録 - クリップアーカイブ

AviTA Differential

Differential は、サーバー上のクリップをテープアーカイブ装置へアーカイブするためのツールです。複数のサーバーチャンネル / VTR ペアを同時に使用でき、効率的な素材バックアップを実現します。

サーバー上のクリップデータベースからテープアーカイブ装置へクリップをドラッグ&ドロップするだけで簡単にアーカイブ可能。外部で作成した XML リストをインポートして処理することもできます。プリセットした「ヘッダー」クリップ（タイムコードやカラーバーなど）を先頭に付加し、クラッシュ / アセンブル / インサート編集モードでアーカイブを作成できます。また、REC 用 VTR の音声トラック選択に対応し、API 連携時にはサーバー側の音声トラックも選択可能です。

テープインジェスト

- シングル / バッチ / スケジュール
- XML ファイル - インジェストの読み込み / 保存
- タイムコードの手動入力で検索
- GUI / リモートパネルから VTR 制御
- プロキシ作成（サーバーによる）

チャンネル表示

- 最大 4 チャンネルの同時インジェストまたはクリップアーカイブ
- テープおよびクリップのタイムコード
- VTR ステータスをリアルタイムで表示
- デフォルトの「ヘッダー」クリップ（カラーバーやクロックなど）を追加可能

特別機能

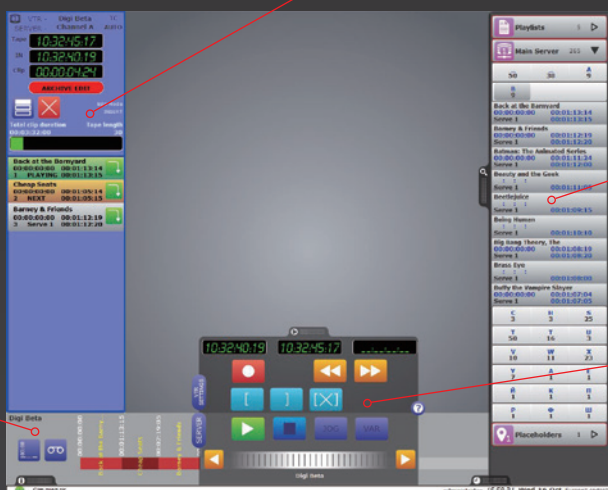
- テキストやグラフィックを挿入するためのキャラクタージェネレーター制御
- API 対応サーバーでのトラック入れ替えに対応

クリップアーカイブ

- サーバー上のデータベース上のクリップ、またはインポートした XML リストをテープアーカイブ装置へドラッグ&ドロップしてアーカイブを作成
- クラッシュ / アセンブル / インサート編集
- XML ファイル - アーカイブとして保存
- クリップ名、タイムコード、日付、メモを含むアーカイブ記録を印刷可能
- GearBox 同様のクリップ整理・管理機能

タイムライン情報

- 各クリップがテープ上でどの位置、タイムコードで記録されるかを視覚的に表示



クリップデータベース

- サーバー上の全クリップを、キーワード・日付・文字列などの条件で検索可能。

サーバー/VTR コントロール

- ジョグ / シャトル対応のトランスポートコントロール
- Mark in/out 設定
- タイムコード指定検索
- クラッシュ / アセンブル / インサート REC



マルチカメラライブ収録&リプレイ

AViTA Eventer

スポーツ制作におけるライブイベント向けのマルチチャンネルサーバーとして構成したり、または Blackmagic Design の HyperDeck や AJA の K1Pro など複数のディスクレコーダーを用いたイベント後のビデオ分析用として構成することができます。

最大 10 チャンネルを同時に制御し、ライブ映像を即座にキャプチャ・再生可能。タグやサムネイルによるショット管理、Tバー操作によるスローモーションリプレイ、常時 REC などの機能を備え、効率的なハイライト作成をサポートします。

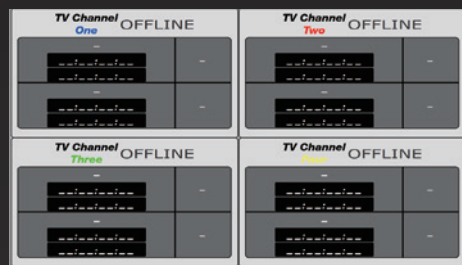


サーバーチャンネルステータスマニター

AViTA Heads Up

制作サブなどのリモートモニター上にサーバーチャンネルとクリップのステータスを表示し、複数のビデオサーバーのポートを一か所からモニタリングできます。

GUI は自由にカスタマイズでき、各チャンネルの PLAY 中のクリップと次に再生されるクリップを表示します。チャンネルごとのタイムコードのカウントアップ / カウントダウン表示にも対応しています。



ARRAY コントロールサーフェス統合型 2~4ch 再生 / 収録ツール

AViTA Lite

Avita Lite は、ソフトウェアアプリケーションと Array コントロールパネルを統合したコントロールソリューションです。オンデマンド PLAY とインジェスト機能を備えた統合制御パネルが必要な環境に最適です。

コンパクトな操作パネルからビデオサーバーを自在に制御したいユーザーに最適で、Avita Gearbox アプリケーションおよび各種 Array コントロールサーフェスを選択して構成できます。

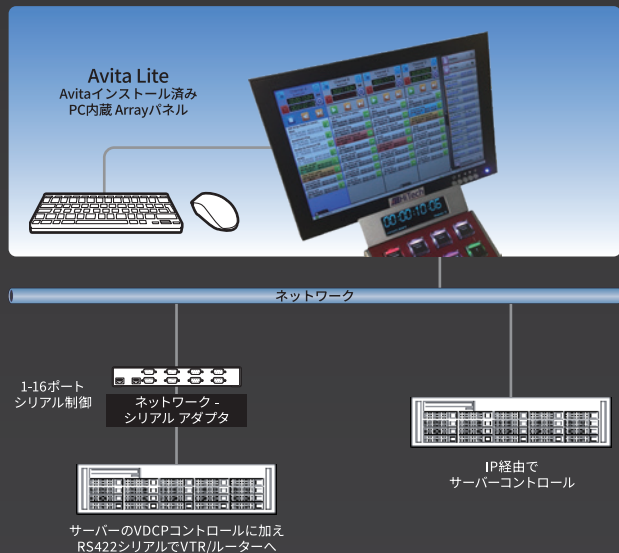
1024×768 以上の解像度を持ったタッチスクリーンと組み合わせることで、最小限のスペースで高度な操作環境を構築できます。また、より大型で高解像度のディスプレイを使用することで、より多くのチャンネルを同時に表示・管理可能です。



AViTA Lite

- ・ PC が内蔵された ARRAY ハードウェアパネル
- ・ 各種 ARRAY パネルを自由に構成可能
- ・ 追加のハードウェアやソフトウェア不要（モニター、キーボード / マウス接続可能）
- ・ ライブ制作に最適
- ・ タッチスクリーンに最適化されたアプリケーション

アプリケーション



ホイールまたはTバーの選択、OLEDまたはRGBキーに対応



拡張オプションパネル

機能をさらに拡張するために、追加のコントロールパネルを接続可能。最大3台までの Array パネルを追加し、1つのコントロールサーフェスとして構成できます。

ARRAY

コントロールサーフェス

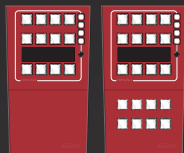


ARRAYは、ハードウェアパネルとソフトウェアを統合し、柔軟かつカスタマイズ性の高い制御環境を提供する全く新しいコントロールサーフェスです。

従来の「1台のパネルで1つの機器やソフトを操作する」リモート制御にとどまらず、複数のデバイスを統合的に制御できるよう、ワークフローに合わせて自在に構築することが可能です。AViTAのコントロールサーフェスとしても動作するほか、SDKによりサードパーティ製品のコントロールサーフェスとして動作させることもできます。

パネル同士はマグネット式で簡単に接続でき、電源とデータは隠しコネクタを介して各パネル間で共有。機器への接続は電源ケーブルとネットワークケーブル1本で完結します。最大4枚のパネルを連結し、操作性を高めるカーブ形状を形成できます。

Array コントロールサーフェス (5種類)



- **RGB サーフェス**: 12個のRGBキー、4個のミニRGBキー、モノクロOLED表示、4方向スイッチ搭載
- **RGB サーフェス+**: 20個のRGBキー、4個のミニRGBキー、モノクロOLED表示、4方向スイッチ搭載



- **OLED サーフェス**: 12個の高解像度OLEDキー（テキスト/アイコン表示対応）
- **OLED サーフェス+**: 20個の高解像度OLEDキー（テキスト/アイコン表示対応）



- **OLED ラック**: ラックマウント型。20個の高解像度OLEDキーと4方向スイッチ搭載

主な特長

- 5種類の操作サーフェスと豊富なディスプレイ/制御オプション
- 静音冷却システムを備えたPC内蔵モデル（コンピューターベース）も用意
- コンパクトな設置面積で、人間工学に基づいたデザインによる優れた操作性
- 明るく鮮明なディスプレイによる直感的なフィードバック表示
- USBおよびネットワーク制御に対応し、最大4パネルを1系統で接続可能
- ケーブルガイドにより電源/USB/LANケーブルを安全に固定
- パネル間は強力なマグネットで簡単接続（必要に応じて機械的補強も可能）
- プロダクションごとにパネル構成を変更可能

Array ベースユニット (3種類)

- **コンピューターベース**: フルスペックIntel PCを内蔵
- **コネクタボードベース**: 電源/制御用ネットワーク/USBポートを装備し、外部機器（キーボードなど）接続に対応
- **サテライトベース**: データバスコネクタ経由で複数フロントパネルを拡張可能な簡易サテライトベース

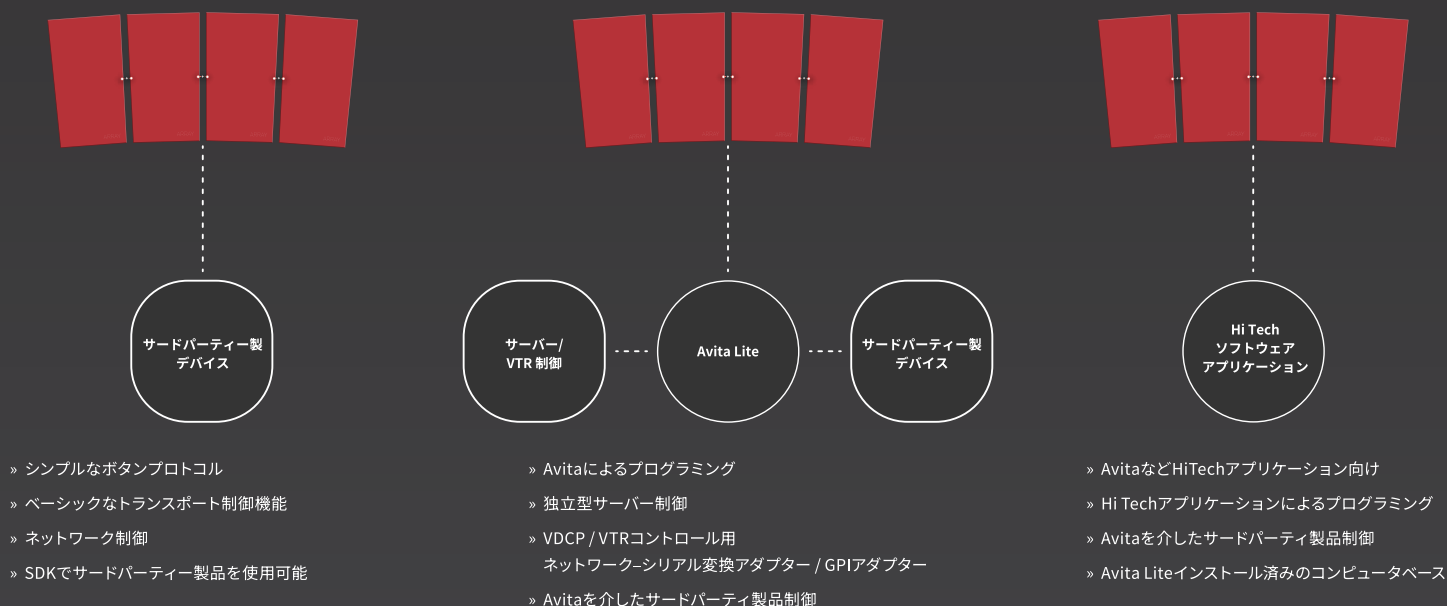
オプション (RGB / OLED サーフェス用)

- Tバーコントローラー（Plusモデルを除く）
- ジョグ/シャトルホイール（Plusモデルを除く）
- タイムコード表示用モノクロOLEDディスプレイ



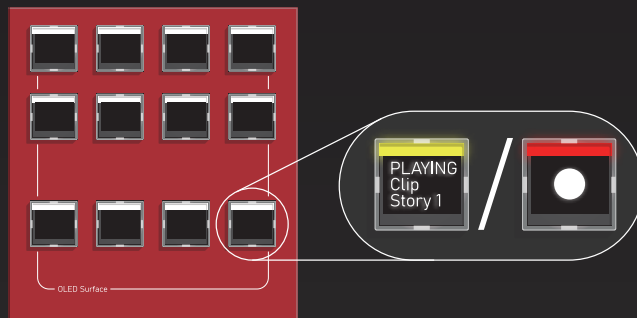
ワークフローに応じて最大4つのARRAY サーフェスパネルを接続

ARRAY サーフェスは、AViTAやHi Techボタンプロトコルを使用するサードパーティ製デバイスとの連携を想定し設計されています。サーバーやVTRIは、コンピューターベースとAViTAなどの適切な制御ソフトウェアを使用して制御することができます。制御はネットワーク経由で行え、シリアルおよびGPI用のオプションインターフェースも利用できます。

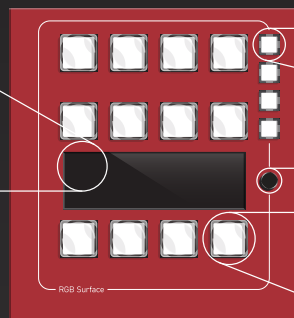


OLED サーフェイス / RGB サーフェス

12個の明るく視認性の高いOLEDキー
テキスト（最大3行・7文字）、または
グラフィック（最大60×32ピクセル）を表示可能。
RGB LEDによる7色のカラー表示に対応。



明るく鮮明なOLEDディスプレイは8分割されており
それぞれが隣接するRGBキーの機能をラベリング表示。
各セクションは、テキスト（最大3行・21文字）、または
グラフィック（最大60×32ピクセル）をプログラム可能。



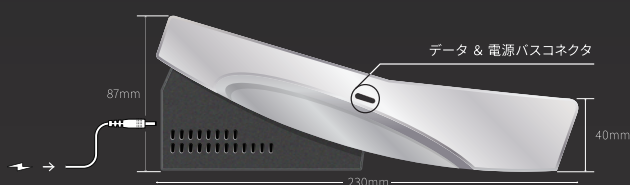
4つのプログラム可能な緑色LEDキー

多機能4方向スイッチ、ロータリーエンコーダー、
プッシュボタンスイッチ

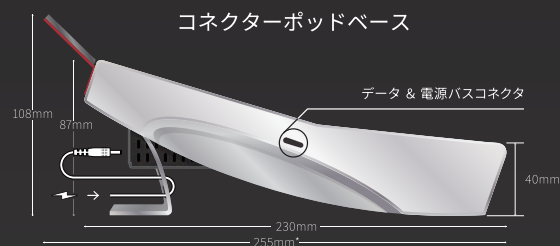
12個のRGBキー
7種のカラーバリエーションでプログラム可能

サイド

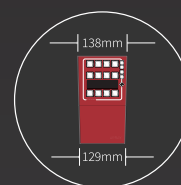
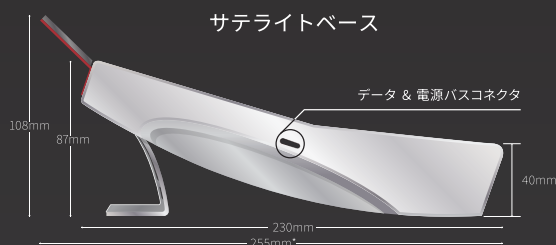
コンピューターベース



コネクターポッドベース



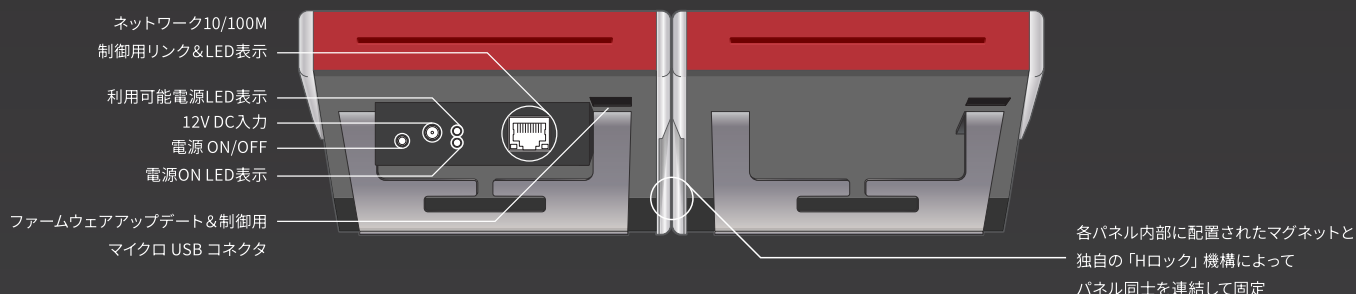
サテライトベース



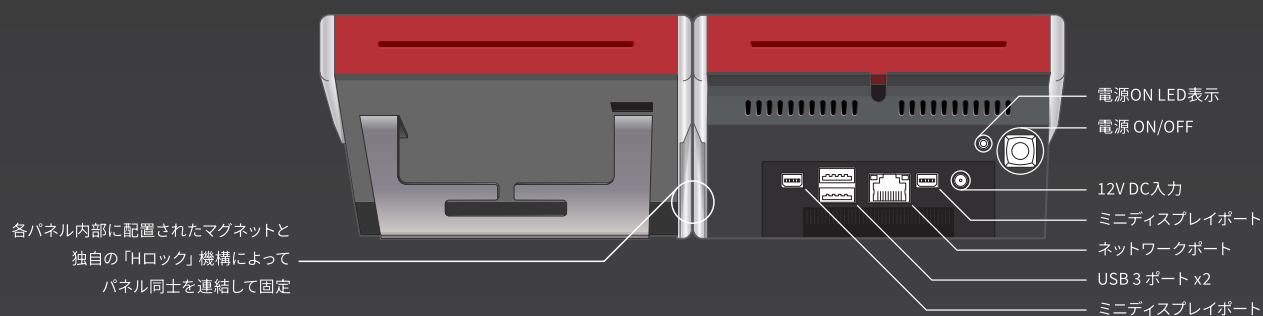
*オプションのディスプレイ取付時

リア

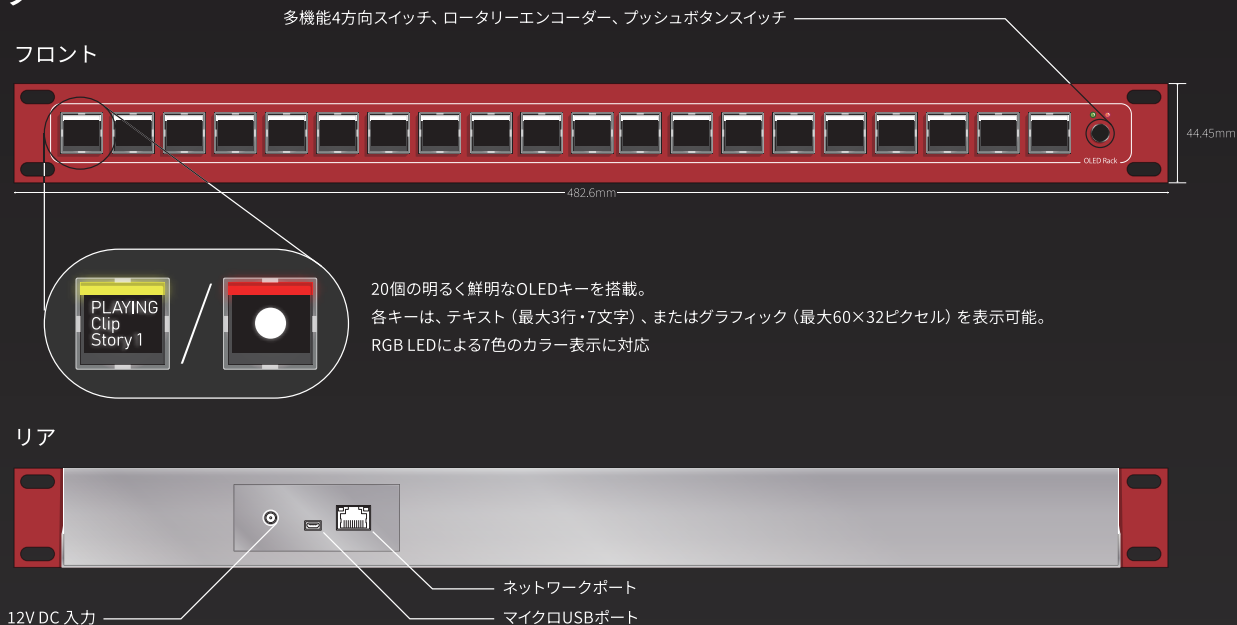
コネクターポッドベース+サテライトベース



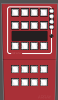
サテライトベース+コンピューターベース



OLED ラック



組み合わせ一覧

		RGB サーフェス		OLED サーフェス		OLED ラック	
							
マスターパネル	コンピューターベース	HT 511	HT 511+	HT 521	HT 521+	×	マスターパネル システム毎に1つ必須
	コネクターポッドベース	HT 512	HT 512+	HT 522	HT 522+	HT 532	
サテライトパネル	サテライトベース	HT 513	HT 513+	HT 523	HT 523+	×	サテライトパネル 3つまで追加可能
オプション		 or  ホール Tバー  ディスプレイ		 or  ホール Tバー  ディスプレイ		 or  ホール Tバー  ディスプレイ	

技術仕様

コンピューターベース

プロセッサ	第5世代 Intel® Core™ i3-5010U (2.1GHz Dual Core、3MB キャッシュ、15W TDP)
メモリ	4GB RAM および 120GB SSD
OS	Windows® 7 Embedded (標準搭載)
グラフィックス	Intel® HD Graphics 5500 2x mini DisplayPort 1.2 コネクタ
周辺機器接続	2x USB 3.0 ポート
ネットワーク接続	Intel® 10/100/1000Mbps
電源	外部 100-240V 入力 15V 3A (最大) 出力
消費電力	30W
動作温度	5 ~ 35°C

コネクターポッド

周辺機器接続	1x USB 2.0 ポート
ネットワーク接続	10/100Mbps
電源	外部 100-240V 入力 12V 5A (最大) 出力
消費電力	30W
動作温度	5 ~ 35°C

備考：本体電源は最大4面のArrayサーフェス構成および全オプションに対応

altus

VTR / DDR コントローラー



HT200 シリーズ

altus HT200シリーズは、1または2チャンネル対応のVTR / DDRコントローラーです。

最大2台のVTRを同時に制御でき、ジョグ/シャトルホイールと、ステータスLED付きトランスポートキーを搭載。滑らかで正確な操作感を実現し、限られた作業スペースでも高い操作性と信頼性を提供します。

- **HT201 / 211** : 1ch VTR/DDR コントローラー
1台のVTR/DDR、ビデオサーバーをコントロールします。
コンパクト且つ低コストながら、HT800シリーズと同等の機能と性能を持ちます。
- **HT212 / 212e** : 2ch VTR/DDR コントローラー
2台のVTR/DDR、ビデオサーバーもしくはREC/PLAYポートを個別に持つDDR、ビデオサーバーをコントロールします。HT212eは、リニア編集対応のeditモデルです。
- **HT252 / 262** : 2ch ディスクコントローラー
2系統のサーバーポートをコントロールし、クリップ管理ツールを搭載することで、各種サーバーのクリップ選択・ロード・PLAY・RECをスムーズに実行します。
HT252はOdetics/AMPプロトコル、HT262はVDCPプロトコルに対応し、オフライン編集機としても使用できます。

共通機能

- 幅広いVTR・ディスクシステムをサポート
- ジョグ/シャトルホイール搭載
- 内部ブザーによる状態警告（オフライン、カセット未挿入など）
- PLAY / REC ロック機能



HT212



制御	BVW	BVW	BVW	BVW	AMP Odetics	VDCP
チャンネル数	1	1	2	2	2	2
キュー登録数	5	99	99	0	99	99
タイムコード表示		●	●	●	●	●
編集 / REC	●	●	●	●	●	●
	●	●	●	●	●	●
PLAY / REC ロック機能	●	●	●	●	●	●
グループ/PLAY REC			●	●	●	●
キュー検索		●	●		●	●
Mark In / Out キー	●	●	●	●	●	●
サーバー内クリップのブラウズ機能					●	●
クリップ非破壊編集					●	●
プログラム可能なキューモード		●	●	●	●	●
ループ再生		●	●		●	●
ジョグシャトルコントロールホイール	●	●	●	●	●	●
Tバー						
テンキー（キュー/タイムコード指定）						
Clip Navigator（ロード/命名/頭出し/±1フレーム移動）					●	●
キーボードインタフェース					●	●
GPI インタフェースオプション						

HT800 シリーズ

Altus HT800シリーズは、4または8チャンネル対応のVTR/DDRコントローラーです。

最大8台のVTRを同時に制御でき、ジョグ/シャトル/キュー/PLAY/REC操作を直感的に実行可能。ライブ制作からポストプロダクションまで、幅広い制作現場に最適です。

- **HT884 / 8** : 4ch/8ch VTR/DDR コントローラー
単純な頭出しの用途からテレシネなどあらゆる用途において費用対効果の高いVTR / DDR コントローラーです。
- **HT884c / 8c** : 4ch/8ch VTR/DDR キューコントローラー
編集点の入力やキュー/マーク設定のためのテンキーを装備し、ビデオ編集機に似たユーザーインターフェイスにより直感的に操作できます。
- **HT884s / 8s** : 4ch/8ch VTR/DDR スローモーションコントローラー
DISKモード機能によりREC中にディスクレコーダーのPLAYポートをコントロールでき、Tバーによる直感的なスローモーション操作とインスタントリプレイが可能です。

主な特長

- Sony RS-422 “P2”プロトコルに準拠した各種デバイスを制御
- 高輝度蛍光表示管ディスプレイ (VFD) 搭載
- ON-AIRインジケーター
- オプションのテンキー入力およびスローモーション操作用Tバー
- テープタイマー/タイムコードジェネレーター/タイムコード表示機能
- VITC/LTC/CTL/AUTOの各タイムコード切替に対応 (EE/PBスイッチング含む)
- 複数のキュー設定 (Mark-In/Outポイント対応)
- 2台同時のインサート/アッセンブル編集機能
- 任意のVTRを組み合わせたギャングコントロール
- プログラム可能なキューモード
- プログラム可能なデバイスラベル設定
- 各VTR/DDRに合わせたジョグ・シャトル感度設定
- Sony VTRエミュレーション対応のDDRを制御可能
- 内蔵ブザーによる警告アラート (オフライン、カセット未挿入など)

s シリーズ キーパッド



“s”バージョンは、Penny & Giles製Tバー、テンキー、可変セレクトキー、各種ファンクションキーを搭載。ライブリプレイやスローモーション操作を直感的かつ精密にコントロール可能です。

テンキーを使用することで、タイムコードを直接入力し、編集点やキュー/マーク設定を迅速に行うことができます。



制御	BVW	BVW	BVW	BVW	BVW	BVW
チャンネル数	4	4	4	8	8	8
キュー登録数	250	250	250	250	250	250
タイムコード表示	●	●	●	●	●	●
編集 / REC	● インサート ● アッセンブル ● クラッシュ			● ● ●	● ● ●	● ● ●
PLAY / REC ロック機能	●	●	●	●	●	●
グループ/PLAY REC	●	●	●	●	●	●
キュー検索		●	●		●	●
Mark In / Out キー	●	●	●	●	●	●
サーバー内クリップのブラウズ機能						
クリップ非破壊編集						
プログラム可能なキューモード	●	●	●	●	●	●
ループ再生	●	●	●	●	●	●
ジョグシャトルコントロールホイール	●	●	●	●	●	●
Tバー			●			●
テンキー (キュー/タイムコード指定)		●	●		●	●
Clip Navigator (ロード/命名/頭出し/±1フレーム移動)						
キーボードインターフェイス						
GPI インターフェイスオプション	●	●	●	●	●	●



Hi Tech Systems は、1990 年代より放送業界向けコントロールシステムの設計・製造を行っている、英国拠点のシステムメーカーです。主な顧客は、テレビ局、番組制作会社、ケーブルおよび衛星放送事業者、放送機器メーカーで、製品はすべて「オペレーター視点」で設計されています。

柔軟性・信頼性・拡張性を重視したラインアップにより、シンプルな 1~2 チャンネル制御から、施設全体を統合管理する大規模ソリューションまで対応可能です。Hi Tech Systems の革新的なコントロール技術は、世界各国の放送・制作現場で、インジェストおよびマルチチャンネルブレイアウトのワークフローを効率化し、放送運用の信頼性と生産性を支えています。



松田通商株式会社

[東京本社] 〒107-0062 東京都港区南青山3-3-15 MTCビル Tel.03(5413)4611 Fax.03(5413)4618 Mail.inquiry@mtc-japan.com
[大阪営業所] 〒532-0011 大阪市淀川区西中島3-8-15 EPO新大阪ビル903 Tel.06(6101)2822 Fax.06(6101)2823

※ 記載の商品/ブランド名やロゴは各社の登録商標です ※ 製品の外観・仕様・価格は予告なく変更されることがあります

<https://mtc-japan.com>

カタログ記載内容 2025年11月現在

